公益財団法人　国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

２０２５年１０月

JINF
Japan Institute
for National Fundamentals

目　　次

1　全　般　・・・3

2　各軍等　・・・4

3　対台湾動向　・・・12

4　対日動向　・・・13

5　南シナ海動向　・・・16

6　軍事交流　・・・20

参考文献　・・・22

中国軍事動向月報：2025 年 10 月

２０２５．１１．７
国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

1　全　般

10 月は訓練最盛期であり、例年国慶節休暇を終了すると部隊の規模・レベルを上げた訓練が報道されるが、本年も遠距離機動訓練、総合実射訓練、対抗訓練等が多く報道され、部隊が年度の最終的な総合演習や実射検閲等を行っていると見られる。

しかし、戦区レベルで実施される統合着上陸訓練に関する報道は中国側・台湾側双方から共に確認されなかった。また、日本・台湾周辺でも軍・海警の活動も低調であった。9 月 3 日の軍事パレードに優先的に人員・予算を配分、第 20 期中央委員会第 4 回全体会議（以下、4 中全会）の開催間の不測事態発生回避、「訓練と戦争準備の一体化」による名称を付した大規模演習の公表中止、悪天候の継続等の要因が関連している可能性がある。

南シナ海においては、スカボロー礁における中国による可能性のある施設の設置やフィリピン（以下、比）・豪のアセットに対する中国軍・海警の危険行為が報道され、中国側の強硬姿勢、特に中国が南シナ海域外国と呼ぶ米豪等と比の関係強化に対する強硬姿勢が継続した。

2　各軍等

（1） 高官人事

○　高官の全人代代表罷免[1]

10 月 15 日、全国人民代表大会常務委員会公報 2025 年第 5 号がで公開され、9 月に全人代代表の職務罷免が公表された以下の 4 名について、以下の通り罷免の理由と時期が公表された。

◇　張林・元中央軍委後勤保障部部長
　　高大光・元中央軍委後勤保障部政治委員
　　7 月 21 日　重大な規律・法律違反

◇　汪志斌・元ロケット軍規律検査委員会書記・元監察委員会主任
　　7 月 18 日　重大な規律・法律違反

◇　王春寧・元武警部隊司令官
　　7 月 25 日　重大な規律・法律違反

○　高官の党籍・軍籍剥奪処分

◇　10 月 17 日、国防部報道官は定例記者会見において高官の党籍・軍籍剥奪処分に関し以下の通り発表[2]。

「党中央委員会と中央軍事委員会の批准を得て、中央軍事委員会規律検査委員会監察委員会は、以下の 9 名の調査を実施。

◇ 何衛東・中央軍事委員会副主席
◇ 苗華・元中央軍事委員会政治工作部主任
◇ 何宏軍・元中央軍事委員会政治工作部常務副主任
◇ 王秀斌・元中央軍事委員会統合作戦指揮センター常務副主任
◇ 林向陽・元東部戦区司令官
◇ 秦樹桐・元陸軍政治委員
◇ 袁華智・元海軍政治委員
◇ 王厚斌・元ロケット軍司令官
◇ 王春寧・元武装警察部隊司令官

調査の結果、9 名は党規律に著しく違反し、重大な職務犯罪の疑いがあり、金額の巨大さ、事案の性質の深刻さ、影響の甚大さから、中国共産党中央委員会は 9 名の党籍剥奪を決定し、嫌疑案件は軍事検察機関に移されることとなる。

また、中央軍事委員会は既に 9 名の軍籍剥奪を決定している。」

◇　20～23 日、中国共産党は 4 中全会を開催、23 日に発表したコミュニケで 17 日に党籍剝奪が公表された何衛東、苗華、何宏軍、王秀斌、林向陽、秦樹桐、袁華智、王春寧に加え、張鳳中（筆者注：ロケット軍政治工作部主任・中将）の党籍剥奪が公表された。

また、張升民の中央軍事委員会副主席への任命が決定された[3]。

【コメント】

四中全会に併せ、軍高官 9 名の党籍剥奪処分を公表、17 日に国防省から処分が公表された高官を合わせると、計 10 名の軍高官が党籍、軍籍を剥奪された。

10 名の内、9 名は軍の最高位である上将、1 名は中将である。中央軍事委員会副主席で制服組ナンバー2 だった何衛東、同委委員で同委政治工作部主任だった苗華、台湾侵攻を担当する東部戦区司令官だった林向陽の各上将も含まれ、文字通り軍中枢の高官が大量粛清される形となった。

なお、王厚斌・元ロケット軍司令官は国防部の発表のみであったが、これは他の 9 名と違い、王厚斌が共産党第 20 期中央委員会委員・候補委員ではなかったためと思われる。また、17 日の国防部の発表では何衛東のみ肩書が「中央軍事委員会副主席」のままなのは中央軍事委員会副主席以上の任命権者が他とは違うためであろう。

この大量処分には二つの目的があると考えられる。

一つは中国が「党規律に著しく違反し、重大な職務犯罪の疑いがあり、金額が巨額」と公表している通り、反腐敗闘争の結果であろう。処分された高官の半数は旧南京軍区第 31 集団軍（現東部戦区第 73 集団軍）での勤務経験があり、習近平国家主席（党中央総書記、中央軍事委主席）に近い福建閥と呼ばれていた。その中央との近さから汚職の温床となったと考えられるが、習氏はこれを容赦なく切り捨てることで、反腐敗闘争への揺るぎない姿勢を示したと言える。

もう一つは、軍改革に伴う不必要な高官の淘汰である。習氏が 2013 年に公表し、2015 年から開始された軍改革では、常設の統合組織である戦区を設立、指揮系統を一本化し、将校を 30%削減する等、組織のスリム化を図り、中央軍事委主席即ち習氏の意図が迅速に末端まで徹底できる組織に改編した。更に 2024 年からは、無人装備や宇宙・サイバー・電子戦に関する装備など新領域戦力の強化に本格的に着手している。このような統合作戦、新領域戦力への対応で習氏の期待に応えることのできない高官を見限ったとも考えられる。

（2）第 15 次 5 カ年計画[4]

中国共産党は 10 月 23 日に閉幕した 4 中全会で、第 15 次 5 カ年計画（2026～30 年）の基本方針を採択した。国防関連部分（抜粋）は以下の通り。

「人民解放軍建軍百年奮闘目標を予定通り達成し、国防と軍隊の質の高い近代化を推進する。戦闘・戦争準備・部隊建設を並行し、機械化・情報化・知能化の融合発展を加速し、国家の主権、安全、発展の利益を守るための戦略能力を強化する。

○　先進的な戦闘能力の開発を加速する。戦略的抑止力を強化し、世界の戦略的バランスと安定を維持する。新領域・新質戦力の大規模化・実戦化・システム化を推進し、無人化・知能化戦力とそれへの対抗手段の発展を加速し、伝統的戦力のアップグレードと改造を強化する。ネットワーク情報システムの建設運用を統一的に実施し、データ資源の開発と利用を強化し、知能化軍事システムを構築する。

○　軍政の現代化を推進する。重要決定の協議・評価と重要プロジェクトの監督を強化し、軍事予算管理改革を推進し、軍事調達システムを改善し、軍事建設の統計評価システムを改善し、勤勉・倹約の軍隊建設の原則を全面的に貫徹し、高効率、低コスト、持続可能な発展の道を歩む。軍隊における法治建設を深化させ、法律・法規の供給と執行監督を強化し、中国の特色ある軍事法治体制を整備する。

○　国家戦略統合体系と能力を強固にし、整備する。軍民横断的な改革を深化させ、軍民がそれぞれの役割を担い、緊密な協力を行い、規範化と秩序ある運用を行う横断的な業務体制を構築する。新興分野における戦略能力建設を加速し、新質生産性と新質戦闘力を効率的に融合させ、共に発展させる。」

【コメント】

5 年前の第 14 次 5 カ年計画基本方針の国防関連部分は軍事力整備と軍民融合に関する 2 項目構成であったが、今回はこれに軍の指導管理に関する項目が追加され、3 項目となった。4 中全会で大量の軍高官の党籍剥奪が公表されたことを受け、党による軍の統制、法による軍の管理等を徹底するためであろう。

軍事力整備に関しては、新領域戦力に関する記述を大幅に増加させ、新領域関連装備の部隊配備や実戦的運用を促進するとした。

軍民融合に関しては、第 14 次にあった「国防と経済の同時発展の促進」という文言が削除され、新領域分野における民間力の活用が強調された。中国経済が低迷する中でも、新領域戦力の整備は進めていくとの決意であろう。

（３）統合訓練の現状

統合訓練の現状

○ 10月9日の「解放軍報」は、『新時代の統合訓練の新局面』において中国軍の訓練の現状について紹介した（出典：解放軍報20251009　http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-10-09&paperNumber=01&articleid=964535）

2020年11月に「中国人民解放軍統合作戦綱要（試行）」施行、その後5年間を経て、現在の訓練は以下のように変化

○ 訓練と戦争準備の一体化

演習準備＝作戦準備、演習状態＝作戦状態であり、統合演習は単なる訓練ではなく、戦争準備を実施しかつその能力を強化するためのプロセスとなっており、訓練から戦争への転換を可能にしている

○ システマティックな訓練

各戦区の統合実動演習や各軍兵種のシリーズ化された演習等が年間を通して全地域にまたがりシステマティックに実施

○ 統合訓練における新領域戦力の発揮

スウォーム化された水中・陸上・空中無人装備（UGV,UUV,UAV）、電子・サイバー・宇宙等の新領域分野の戦力が統合作戦の中に取り入れられ、現代戦における戦力発揮の要領を細かく検討している

○ 統合訓練のレベルの向上

統合訓練の頻度・参加部隊等が拡大し、そのレベルが年々向上。

・1個飛行場にて陸海空の各種軍用機が離発着と整備が可能

・海軍遠海訓練編隊内の指揮所に各軍兵種の幹部が勤務し、幕僚活動を実施

中国軍は2027年の建軍百年奮闘目標において台湾侵攻戦備の完了と新領域戦力の発揮を重視しており、特に訓練から直ちに実戦に移行できる態勢構築を重視して訓練している可能性あり

（4）陸軍

東部戦区第72集団軍の無人装備を併用した着上陸訓練

10月24日のCCTV「国防故事」が、東部戦区第72集団軍の着上陸訓練を報道。以下、判明事項
○ 東部戦区第72集団軍水陸両用旅団が大隊級以上の着上陸対抗演習を実施
○ 第1波で上陸した中隊が、無人装備を使用した通路開設任務を遂行

（資料源：CCTV《国防故事》 20251024https://tv.cctv.com/2025/10/24/VIDEX5TohDefsbAwI8GQZyVK251024.shtml_）

ロボット犬を弾薬補給・障害処理・偵察に使用

水陸両用車に装備しているUAVで戦場偵察

歩兵が自爆用小型UAVを操作

自爆用小型UAVが敵陣地内に突撃して爆破

○ 上陸部隊は各車両単位で無人装備を運用しており、TV用に脚色された面はあるとしても、重視される訓練においては、部隊は無人装備を十分に配分され、訓練ができる状態
○ ロボット犬の多様な運用、様々なUAVの組み合わせ等、無人装備の運用の検討が深化

東部戦区陸軍の無人機実飛行訓練

10月27日の微博・央視軍事は、東部戦区陸軍の訓練を以下の通り報道
○ 東部戦区陸軍の某旅団が無人機の実飛行訓練を北西地域で実施
○ 自律飛行・戦術運用・模擬打撃等を重点的に演練し、飛行能力を総合的に検証
○ 新たな能力により、システム作戦能力が向上

（資料源：微博・央視軍事20251026https://weibo.com/u/6189120710?refer_flag=1005055013_）

プラットフォームからUAV発射

UAVによる掩体への攻撃

着弾時の状況

○「新たな能力」と報道しており、東部戦区の陸軍旅団が新装備UAVの訓練を実施した可能性
○ 映像では当該UAVは車両から発射され、掩体を破壊（実射は今訓練の映像かは不明）
○ 同旅団は台湾担任部隊であり、侵攻時に第1線部隊が車両から機動的かつ迅速に発射でき、敵陣地を破壊できるUAVを運用できる能力を新たに保有しつつある可能性

（５）空軍

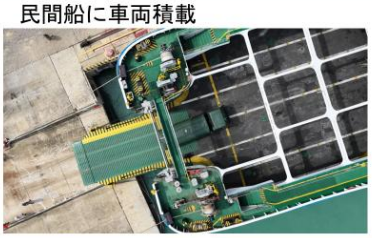
南部戦区空軍の長距離展開総合訓練

10月14日の南部戦区公式SNS微信が、南部戦区空軍の長距離展開総合訓練を報道。
○ 空軍某分隊が車両数十両を「道路＋水路＋鉄道」で輸送する総合演習を実施
○ 5日間で3000Kmの長距離を起動し、任務地域に到着
○ 時間内の移動完了や積載時の誘導・固定の精度・強度等を検閲、訓練成果を遺憾なく発揮

（資料源：南部戦区微信20251014
https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzAwOTc5MDk3OA==&mid=2652939242&idx=1&sn=8664237d2bedc2d0a8336ec4eb6b3afb&chksm=811069398bb3b60a2ccf57d9c7c5055206bb145972372b023da9144285003c03ff6f9c24e0f9&scene=27　_）

基地から鉄道で港湾まで移動

民間船に車両積載



目的地の港湾で卸下

船内で政治幹部が政治教育により士気を鼓舞

○ 南部戦区空軍基地から民間船へ搭載可能な港湾へは直線距離で最も遠い基地からでも約1300kmであり、台湾周辺海域への船舶機動も含めて3000kmの機動訓練であった可能性
○ 南部戦区は台湾侵攻の副担任戦区であり、民間船を使用した長距離展開訓練はこれまでも確認されているが、陸軍が主であったものが空軍にも拡大
○ 空軍部隊が台湾離島・本島に上陸が必要な任務としては戦域防空や空港の接収等海岸堡設定以降に限定されると思われるが、作戦長期化を見据えて訓練している可能性

東部戦区空軍の台湾周辺での模擬対抗訓練

10月26日の微博・央視軍事は、東部戦区空軍の訓練を以下の通り報道
○ 東部戦区空軍の多部隊が実戦化訓練に参加、偵察警戒・空中封鎖・精密打撃能力を検閲
○ 数機のJ－10戦闘機が目標空域に飛行、H-6K爆撃機多数機が台湾周辺海空域で模擬対抗訓練を実施

（資料源：微博・央視軍事20251026https://weibo.com/u/6189120710?refer_flag=1005055013_）

訓練に参加中のH-6K

H-6Kから射爆場へ爆弾投下

H-6K搭乗員が「雲の隙間から台湾海岸線をはっきりと識別できる」とコメント

○東部戦区空軍が年度の最終段階として、実射を伴う大規模対抗訓練を実施した可能性
○中国全人代常務委員会は10月24日、10月25日（中華民国の台湾光復節）を台湾光復記念日にすると決定したことから、台湾への牽制も企図した可能性

（5）海警

○　北太平洋公海漁業法執行パトロール[5]

10 月 10 日、海警 1303 と 1305 が北太平洋公海漁業法執行パトロールを終え帰港。今回のパトロールは 31 日間、航行距離 17,500 ｶｲﾘ、航行時間 1409 時間であった。この間、各国の漁船 69 隻を監視、臨検 10 隻、ヘリによる法執行を 5 回実施。

【コメント】

昨年は北太平洋公海漁業法執行パトロールに北海海区直属第 6 支隊の 2 隻が派遣され、パトロールは 45 日間、航行距離 17,600 ｶｲﾘ、航行時間 2100 時間、各国の漁船 73 隻を監視、臨検 18 隻、ヘリによる法執行を 12 回実施した。一昨年である 2023 年の担当は本年と同じ東海海区直属第 1 支隊であったが、期間は 45 日間であり、今年は前 2 年に比し期間が 2/3 に短縮された。

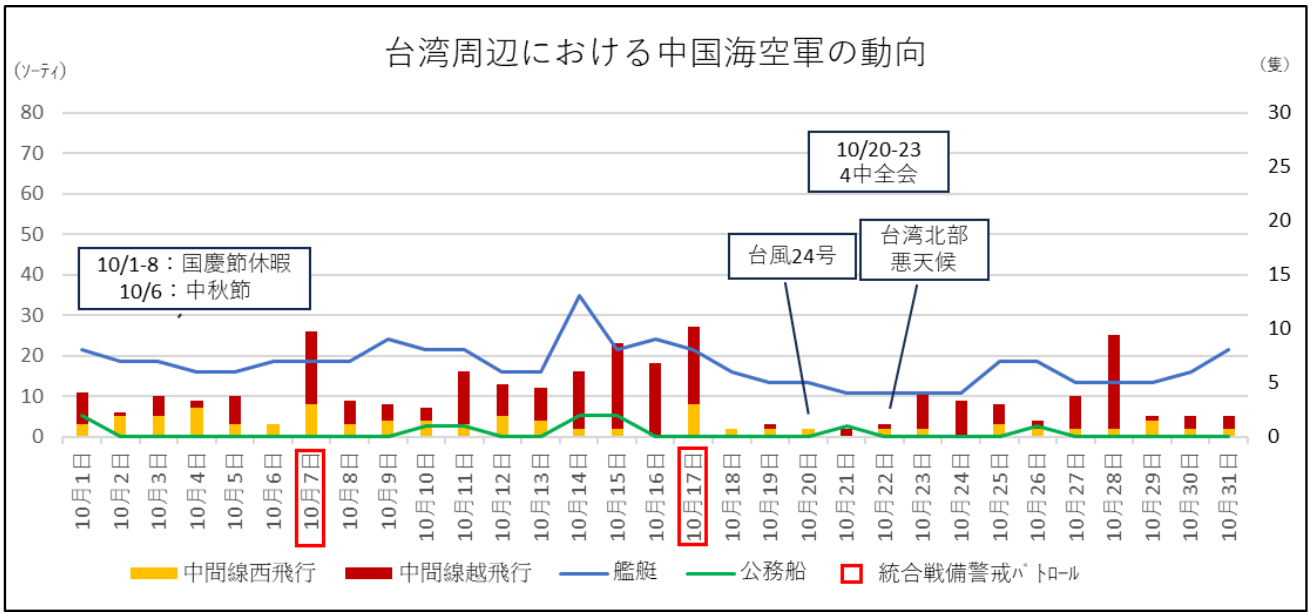
例年 7 月中旬以降出港しているが、今年は 9 月 10 日に出港している。9 月 3 日の中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会関連の警備強化のために出港時期を遅らせた、または尖閣及び韓国との境界が存在する黄海におけるパトロール強化のために期間を短縮した、以上 2 点の理由が考えられる。

また、出港時の写真では甲板上にはヘリ及び無人機が確認された。無人機運用については報道が確認できないが、ヘリについては随時運用できる態勢をとっているようである。

3　対台湾動向

（1） 台湾周辺での軍の活動状況

○　中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

10 月は中国軍機延べソーティー318（内、中間線超えが延べ 222)、中国艦艇延べ 205 隻、公務船延べ 10 隻が確認。1 日における軍用機最大確認数は 27 ソーティー、最大中間線超え 23 ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは 2 回であった。

（2）金門周辺海域での動向

台湾海巡署、中国海警局共に金門海域での海警船の活動に関する発表は確認できなかった。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、10 月 2～3 日に東沙制限水域で海警 3102 が活動した[6]。

10 日には、同じく海警 3102 が AIS を切った状態で東沙制限水域に進入した[7]。

【コメント】

国慶節休暇や天候の影響もあり、軍用機の活動は低調であった。

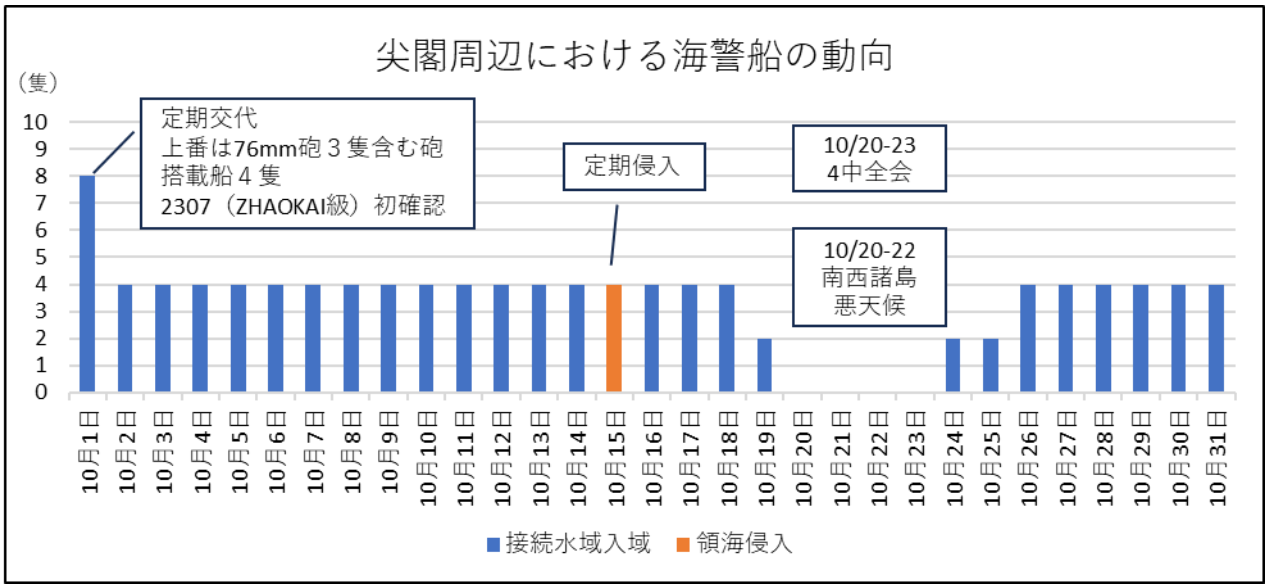
9 月には海空統合訓練を確認したことを台湾側が公表したが、10 月は中国・台湾双方からの大規模演習や統合訓練に関する公表はなかった。9 月 3 日の軍事パレードに人員と予算を重点配分した可能性、「訓練と戦争準備の一体化」の常態化により名称を付す大規模演習の実施を止めた可能性等が考えられる。

また、金門付近での活動も含め、海警船の活動も低調であった。悪天候の関係もあろうが、4 中全会で海警総隊の所属する武装警察部隊の司令官の処分も発表されており、慎重を期して不測事態発生を避けた可能性もある。

4　対日動向

（1） 尖閣諸島周辺での活動状況

○　海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



（資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成）

10 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。定期侵入は 1 回であった。

定期交代は 10 月 1 日に行われ、海警 2307 が尖閣周辺で初確認された。2307 は ZHAOKAI 級で、海軍フリゲート艦仕様で建造された巡視船であり、ヘリ格納庫を装備している。

10 月 20～23 日の間の活動は確認されず、最長を更新していた域内航行の連続日数は 335 日で途切れた。

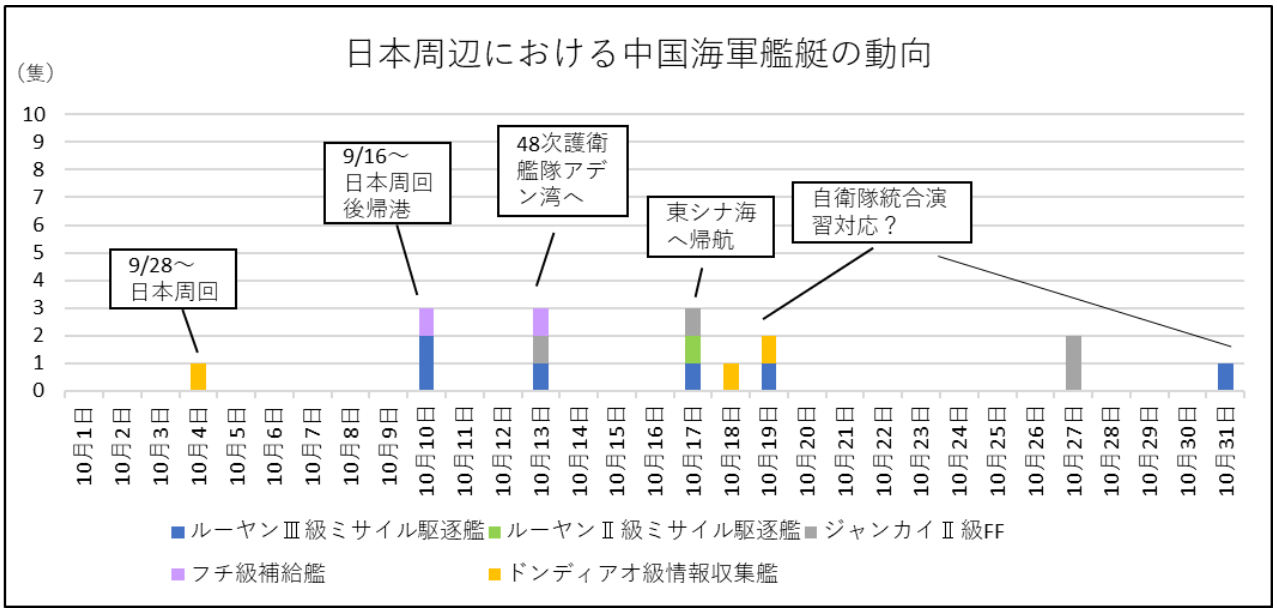
【コメント】

南西諸島は 10 月 20 日には天候が悪化し、22 日にかけて落雷や突風、竜巻などに注意が必要な状況であったため、4 隻共退避した可能性がある。AIS が確認できた海警 2307 は 20 日に玉環島に帰港し、24 日 7 時台に玉環島を出港しており、十分に天候が回復するまで玉環島で待機していたと見られれる。

10 月の編隊は 2302，2305，2307，2502 であり、3000t 級と 5000t 級と比較的大型であったが、このような慎重な行動を採ったのは、4 中全会開催中の不測事態発生を回避したとも考えられる。

（２）日本周辺での軍の活動状況

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 16 隻の活動が確認された。

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向

防衛省発表による中国軍機の活動は確認されなかった。

【コメント】

艦艇の活動に関しては、9 月以降、北部戦区海軍のフチ級を伴った艦艇群及び情報収集艦が対馬海峡を通過して日本海に入り、太平洋に進出し、日本を周回する形で活動した。太平洋での活動は不明であるが、日本海での情報収集、アラスカ方面での訓練、北極海航路開発等の可能性が考えられ、その行動範囲を拡大していることが窺える。

10 月 20～30 日、令和 7 年度自衛隊統合演習（実動演習）が実施され、陸・海・空自衛隊が統合により演習を行い、訓練の一部には、米軍及び豪軍が参加した。18 日以降、大隅海峡を通過して活動した情報収集艦等はこれに対応して情報収集した可能性がある。

軍用機に関しては、10 月は台湾周辺での軍用機の活動が低調であり、台湾周回飛行も確認されなかったことから、これに関連した無人機の日本周辺での活動も確認されなかった。

（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○　日本の戦闘機が初めて欧州の基地に着陸[8]　解放軍報 20251009

航空自衛隊の F-15 戦闘機がアトランティック・イーグルズの一環で英国、ドイツ等を訪問。近年日本は NATO との結託を強化しているが、アジアに不安定要素をもたらすだけだ。

○　日本が長距離ミサイルの量産を開始[9]　解放軍報 20251016

防衛省は先頃、新型潜水艦発射ミサイルと艦搭載型 12 式対艦ミサイル改の量産を開始と公表。敵基地攻撃能力強化は平和憲法を越えるものである。世界反ファシズム戦争勝利 80 周年の今年、日本は歴史の教訓を真摯にくみ取るべきである。

○　日本の新首相が防衛費 GDP2%目標を来年 3 月までの当該年度に前倒しで達成すると言及したことについて[10]　国防部定例記者会見 20251030

近年、日本は大幅に防衛費を増額し、武器輸出制限を緩和し、軍事力を飛躍的に増強しようとしており、専守防衛や平和発展の堅持に大いに疑問を抱かせる。日本に軍事安全保障分野で言動を慎み、実際の行動を以ってアジアの隣国と国際社会の信頼を得るように促す。

【コメント】

中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会前に比して減少しているが、空自機の欧州訪問等、日本の動向を細かく監視し、諸外国との連携阻止を企図していることが窺える。

5　南シナ海動向

○　サンディ礁

10 月 12 日、中国海警局報道官は、「12 日、比公船 3002 号と 3003 号が中国政府の許可を得ずに南沙諸島サンディ礁（筆者注：中国名鉄仙礁）付近の海域に不法に侵入。午前 9 時 19 分、フィリピン公船 3003 号は中国側の度重なる厳重警告を無視し、通常の法執行活動中だった海警 21559 に危険な接近を行い、衝突事故を引き起こした。全責任は比側にある。中国海警局は法に基づきフィリピン公船に対し取締措置を講じ、断固として駆逐した。」と公表[13]。

一方、比沿岸警備隊報道官は「12 日朝、漁業水産局の船舶 3 隻がパグアサ島領海内で操業中の比漁船の支援を行っていたところ、中国海警と海上民兵による危険で挑発的な行動に直面した。午前 8 時 15 分頃、中国海警は放水砲を発射し、危険なほど接近。9 時 15 分頃、海警 21559 が放水砲を発射、9 時 18 分に比漁業水産局船舶の船尾に故意に体当たりし、軽微な構造損傷が生じたが、負傷者は無し」と公表[14]。

放水する海警21559

放水された比漁業水産局船舶からの映像

（出典：左右ともX:Jay Tarriela20251012）

○　豪軍機へのフレア発射

10 月 20 日、南部戦区空軍報道官は「19 日、豪軍 P-8A が中国政府の許可を得ず、西沙領空に侵入したため、南部戦区は海空兵力により法に基づき追跡監視し、強力な対抗手段により、警告駆逐した」と公表[11]。

一方、豪国防省は 20 日、「豪政府は中国政府に対し、中国空軍機の安全・プロフェッショナルとは言えない対応に懸念を表明した。19 日、豪空軍 P-8A ポセイドン哨戒機が南シナ海上空で監視活動を行っていた所、中国空軍 Su-35 戦闘機が至近距離でフレアを発射した。これは機体と乗員を危険にさらす、安全・プロフェッショナルとは言えない対応である。被害はなかった。」と公表[12]。

豪PA-8（左）と中国戦闘機（右）

中国戦闘機（右）がフレア発射

（出典左右共：環球網20251020）

○　スカボロー礁

◇　10 月 15 日、比沿岸警備隊報道官は「15 日にスカボロー礁に設置されたブイを発見、これは 14 日に設置されたものに引き続き 2 つめとなる。比の海洋状況把握飛行の間、中国海軍ヘリコプターと空軍 J-16 による危険な妨害を受けた。」と公表[15]。

中国が設置したと見られるブイ

（出典：X:Jay Tarriela20251015）

◇　10 月 16 日、中国海警局報道官は「16 日、比偵察機 2 機がスカボロー礁領空を侵犯、海警は法と規則に基づき追跡監視・管制駆逐した。」と公表[16]。

◇　10 月 31 日、中国海警局は「31 日、海警はスカボロー礁領海と周辺区域において法執行パトロールを実施した」と公表[17]。

◇　10 月 31 日、南部戦区は「10 月以来，南部戦区は海空戦力により，スカボロー礁領海領空及び周辺区域の戦備警戒パトロールを継続して強化している」と公表[18]。

○　南部戦区の活動

11 月 1 日、南部戦区報道官は「10 月 30～31 日，比が域外国を南シナ海に引き込み、所謂『共同パトロール』を実施し、地域の平和と安定を深刻に破壊した。南部戦区は追跡監視し、南シナ海の如何なる妨害やホットスポットを作り出す活動も掌握している」と公表[19]。

【コメント】

本年 2 月にも、豪国防省が「南シナ海国際海域で定期的なパトロールを行っていた豪空軍 P-8A 哨戒機の至近距離で、中国軍の J-16 戦闘機が照明弾を投下」と公表し、中国軍機の危険行為を非難しているが、今回同様の事態が発生していることから、中国は南シナ海での外国機への強硬な対応を変える意図はないものと思われる。

米・豪・ニュージーランド・比 4 カ国の海空軍が 10 月 30～31 日に比の排他的経済水域を含む南シナ海において海上協同活動(Maritime Cooperative Activity)を実施した。これに対し南部戦区が非難する声明を出す等、強く反発しており、南シナ海で比と米豪等が連携するのを引き続き警戒している。

スカボロー礁では軍・海警のプレゼンスを継続しているのに加え、ブイの設置が確認された。今後さらなる施設の設置に向けた動きがあるのか注目される。

6　軍事交流

（1）軍事交流

○　董軍国防部長の第 12 回 ASEAN 国防相拡大会議・第 15 回中国 ASEAN 国防相会議参加

10 月 30 日～11 月 2 日、董軍国防部長は第 12 回 ASEAN 国防相拡大会議・第 15 回中国 ASEAN 国防相会議参加のため、マレーシアを訪問[20]。

31 日に実施された中国 ASEAN 国防相会議では、防衛安保協力の強化や 2027 年に第 2 回中国 ASEAN 海上共同演習を実施することで合意した[21]。

また訪問間、米・ニュージーランド・タイ・韓国・日本・豪の防衛部門のトップと会談した[22]。

○　米中国防相会談

10 月 31 日、マレーシア訪問中の董軍国防相がヘグセス米国防相と会談。

董氏は以下の通り表明[23]。

「習近平主席とトランプ大統領の韓国での会談の成功は、中米関係の次の段階における安定的な発展に向けた戦略的指針となり、両国は必ず共に成功し繁栄できることを示した。両国の国防部門は、実際の行動により国家元首のコンセンサスを実行し、ハイレベルの戦略意思疎通において模範的な役割を果たし、政策レベルの意思疎通を強化して信頼を構築し、疑念を払拭し、最前線の将兵間の良好な交流を拡大し、大学、学界、戦略コミュニティが両軍の共存の正しい道を模索する上で支援を提供することを奨励し、平等、尊重、平和共存、安定的で正しいな両軍関係を構築し、両国関係の円滑な発展を支えるべきである。

台湾海峡両岸の統一は止めることのできない歴史的潮流である。米国は台湾問題において、言動を慎み、『台湾独立』に断固反対すべきである。中国は平和的発展に尽力し、同時に国家安全保障上の利益を断固として守り、いかなる侵害や挑発にも冷静に対応する十分な実力を備えている。

米国が中国を抑止せず、衝突を望まないという言動を行動に移し、中国と協力して地域と世界の平和と安全にプラスのエネルギーを注入することを希望する。」

【コメント】

米中国防相会談では 30 日に実施された米中首脳会談の流れを受け、信頼醸成を重視したものとなった。一方、首脳会談では台湾問題に関する公式報道はなされなかったが、国防相会談では台湾に関しこれまで通りの主張を展開し、台湾問題では譲歩しないとの姿勢を示した。

董国防相はマレーシア訪問間、日本を含む他 5 か国の防衛相等とも会談したが、個別に内容が発表されたのは米国のみであった。米中関係を最重視し、他国との関係は米中関係のバランスの中で調整すべきものと考えていると見られる。

（２）共同訓練

○　中・マレーシア共同演習「和平友誼-2025」

10 月 15～25 日、マレーシア及び周辺海域において、中・マレーシア共同訓練「和平友誼-2025」を実施。同シリーズの演習としては 6 回目であり、今回は「人道支援・災害救援と海上安全保障」がテーマ。南部戦区陸軍・海軍・空軍、香港駐留部隊及び聯勤保障部隊約 700 名が参加。8 日、湛江、三亜、香港から出発[24]。

両国で計 1300 名以上が参加し、海軍はマラッカ海峡にて共同捜索・護衛・艦載ヘリによる補給等を演練した[25]。

○　中・サウジアラビア海軍共同訓練「藍剣-2025」[26]

10 月 12～23 日、中・サウジアラビア海軍特殊作戦共同訓練「藍剣-2025」をサウジアラビア・ジュバイルで実施。同シリーズとしては 3 回目。

個人と小部隊の共同訓練を行い、総合演習では対テロ・航行護衛・海上捜索等を演練した。

○　中・ジブチ陸海空共同訓練[27]

10 月 27～29 日、中国ジブチ保障基地とジブチ軍が「協作-2025」共同訓練を実施し、共同対テロ能力を強化した。これは両国の陸海空多軍兵種としては初の共同訓練である。

【参考文献】

1　中国人大網 20251015
http://www.npc.gov.cn/npc/c2/c30834/202510/P020251015315268637401.pdf
2　国防部網 20251017
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16416084.html
3　新華社 20251023
http://www.news.cn/20251023/5036defefddc4cc68ac92331e24f7551/c.html
4　中華人民共和国中央人民政府 20251028
https://www.gov.cn/zhengce/202510/content_7046050.htm
5　新華社 20251010
http://www.news.cn/milpro/20251010/b2d04a4f84c544c9a48f602780a39a2a/c.html
6　海洋委員会海巡署 20251003
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166048&ctNode=650&mp=999
7　海洋委員会海巡署 20251013
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166117&ctNode=650&mp=999
8　解放軍報 20251009
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251009/128145476e6177cf0bf4261ff60a655d.pdf
9　解放軍報 20251016
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251016/8a6f3814f5eaa2af90adab9aafdc8043.pdf
10　国防部網 20251030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16418701.html
11　国防部網 20251020
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16416483.html
12　豪国防省 20251020
https://www.defence.gov.au/news-events/releases/2025-10-20/statement-unsafe-unprofessional-interaction-peoples-liberation-army-air-force
13　中国海警局 20251012
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202510/t20251012_2852.html
14　X:Jay Tarriela（比海上警備隊報道官）20251012
https://x.com/jaytaryela/status/1977200736196083745
15　X:Jay Tarriela20251015
https://x.com/jaytaryela/status/1978463138510151945
16 中国海警局 20251016
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202510/t20251016_2858.html
17　中国海警局 20251031
ttps://www.ccg.gov.cn/wqzf/202510/t20251031_2861.html
18　南部戦区微信 20251031
https://mp.weixin.qq.com/s/EZZdI5XiqwDa4y13GYxcTA

19　中国軍網 20251101
http://www.81.cn/yw_208727/16419176.html
20　国防部網 20251030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16418908.html
21　中国軍網 20251031
http://www.81.cn/yw_208727/16419025.html
22　中国軍網 20251102
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-02&paperNumber=02&articleid=966051
23　国防部網 20251031
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16418941.html
24　中国軍号 20251008
https://weibo.com/u/7739029497?wm=5
25　国防部網 20251030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16418701.html
26　国防部網 20251030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16418701.html
27　中国軍網 202511404
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-04&paperNumber=02&articleid=966209

中国軍事動向月報　２０２５年１０月

２０２５年１１月１０日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093
東京都千代田区平河町２－６－１
平河町ビル５階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。